

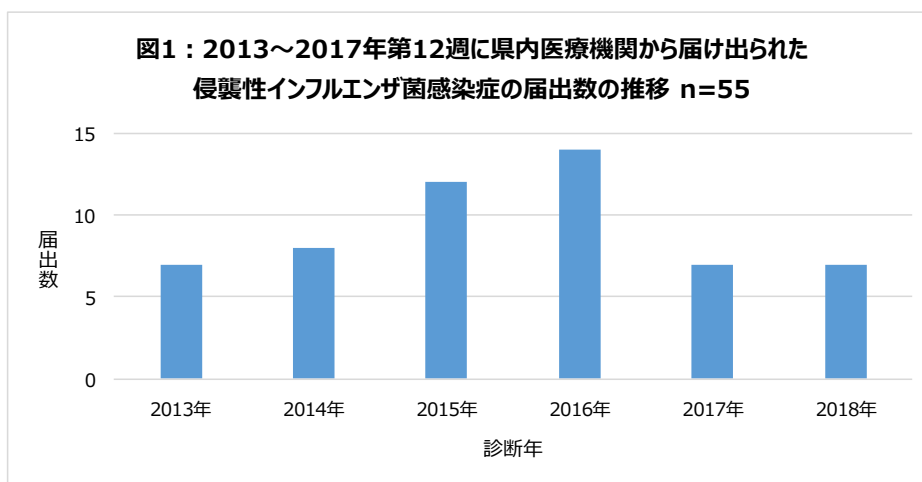
## 【今週の注目疾患】

### 【侵襲性インフルエンザ菌感染症】

2018年第12週に県内医療機関から3例の侵襲性インフルエンザ菌感染症の届出を認め、2018年の累計は7例となった。本疾患のサーベイランスは、インフルエンザ菌莢膜b型株(*Haemophilus influenzae* type b; Hib)に対するワクチンが定期接種となった2013年4月の同時期から開始された。ワクチン導入によりHibによる本症の発生は激減した。現在の報告の多くが無莢膜型株(non-typeable *H. influenzae*; NTHi)と推察されるが、血清型(莢膜型)別は多くが未実施となっており、正確な血清型分布は不明である。サーベイランスが開始された2013年4月以降、県内医療機関から届け出られた全55例についてまとめる。

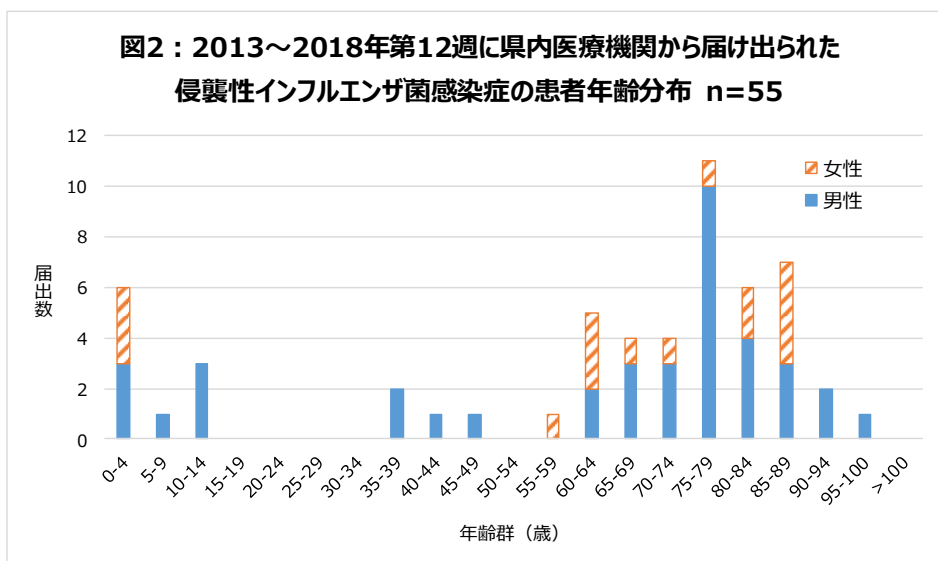
#### 1) 届出数

2013年(4月1日から)7例、2014年8例、2015年12例、2016年14例、2017年7例、2018年(第12週時点)7例の届出を認めた(図1)。届出に明確な季節性は見られなかった。



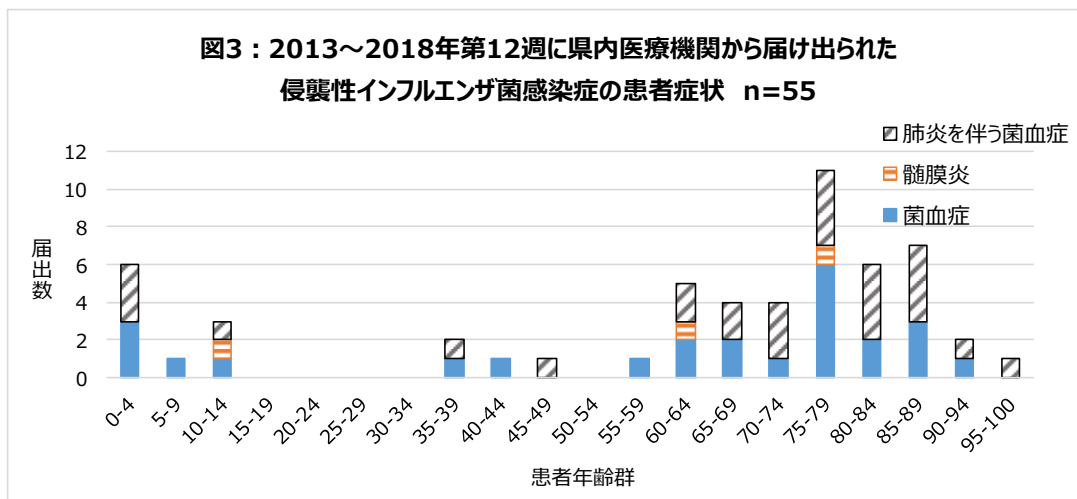
#### 2) 性別・年齢群

性別は男性39例(70.9%)、女性16例(29.1%)と男性の割合が高かった。患者年齢群では小児と高齢者にピークを示し、全届出例に対する5歳未満と65歳以上の割合はそれぞれ10.9%、63.6%であった(図2)。



3) 症状

肺炎を伴う菌血症 27例(49.1%)、菌血症 25例(45.5%)、髄膜炎(菌血症を伴うもの含む)3例(5.5%)であった。65歳以上においては肺炎を伴う菌血症の割合が54.3%であった。3例の髄膜炎例は10～14歳群で1例、60～64歳群で1例、75～79歳群で1例であった(図3)。



注;《菌血症》菌血症の記載があったもの、もしくは血液から病原体検出例。

《髄膜炎》髄膜炎の記載があったもの、もしくは髄液からの病原体検出例。

55例において血清型に Hib と記載のあったものはなかった。NTHi が主要な原因株となったワクチン導入後の本症の疫学についても、検討していく必要がある。